04 芸術館通信

2025年
11月

京都芸術大学芸術館では、本学所蔵品や空間を活かし、本学学生（在学生・卒業生）や教員の作品や活動と協働し、大学の教育・制作・研究活動の一助となるよう学内外に開いていくことを目指しています。今号は秋の資料保存強化月間特集です。

芸術館からのお願い

「文化財IPMへのご協力について」

京都芸術大学芸術館では、収蔵資料を未来へと受け継ぐために、文化財IPM（総合的有害生物管理）の取り組みを進めています。
IPMとは、殺虫剤などに頼らず、環境の管理とモニタリングを中心に害虫被害を防ぐ方法です。国内外の博物館や美術館でも導入が進み、文化財保存の新しい標準となっています。
当館では、展示・収蔵スペースの温湿度管理の徹底に加え、トラップによる害虫調査を定期的に実施しています。
特に秋から冬にかけては、虫の活動が減少する時期であると同時に、衣類や紙資料に潜む虫の卵が持ち込まれやすい季節でもあります。
学生・教職員・来館者のみなさまにも、以下の点でご協力をお願いしています。

🙏来館される方へご協力のお願い

🌿展示室・収蔵庫には飲食物や植物の持ち込みをお控えください。
🪶見学や授業利用の際は、衣類に付着した虫やほこりを軽く払ってから入室をお願いします。
🦟不要な包装材（段ボール・新聞紙など）を持ち込まないようにしましょう。
🐛万一、虫やカビの痕跡を見つけた場合は、スタッフまでお知らせください。
🪲虫は食べものを探して移動します。展示室前廊下でのご飲食もできるだけお控えください。

学生のみなさんへ

芸術館では、文化財を守るための虫パトロールやトラップ調査に加えカビチェックも定期的に行っています。これらの活動に関心のある方は、レクチャーや活動日にご参加いただくことも可能です。興味のある方は、ぜひ芸術館までお知らせください(ただし虫が怖くない方限定🪲)。

IPMは、Integrated Pest Managementの略で、「点検」「環境管理」「捕獲」「評価」を組み合わせた総合的な害虫・カビ対策のことです。
薬剤を使う前に、まず“原因を知る”ことを重視します。たとえば、虫が集まる場所を見つけたら、温湿度や風通しを見直し、トラップや清掃でリスクを減らす――。そんな「観察と改善のくり返し」がIPMの基本です。芸術館では、年2回のトラップ調査やデータ分析を通して、環境の変化を記録し、文化財を守る取り組みを続けています。

芸術館Instagramでは、展覧会やイベントの情報、作品の紹介、活動報告などを発信中！ぜひ「フォロー」や「いいね！」をしてみてくださいね。

文化財によくない虫、そうでない虫
―虫のすべてが「敵」ではありません―

私たちの身のまわりには、数えきれないほどの虫たちが暮らしています。
その中には、文化財や作品にダメージを与える「要注意の虫」もいれば、
実は人に害を与えず、自然の循環を支えている虫もいます。
ここでは、文化財の保存環境を守るうえでの「見分けのヒント」を紹介します。

種類	特徴	被害の例
🪲 カツオブシムシ（ヒメマルカツオブシムシなど）	成虫は小さく丸い形。幼虫が繊維や毛を食べる。	和装本・標本・織物・毛皮などに穴をあける。
🐞 シバンムシ（タバコシバンムシなど）	穴をあけて木材や紙を食べる。乾燥した場所でも活動。	絵画の木枠・額縁・書籍などを粉状にしてしまう。
🪳 チャタテムシ	湿気とカビを好む。カビを食べるが、紙も傷める。	湿った資料や段ボール箱の中で繁殖。
🪰 ゴキブリ	雑食性で汚染や細菌を運ぶ。	展示ケースや収納家具の裏に潜む。
🐁 ネズミ（※昆虫ではないが）	噛み跡・糞害・配線被害などを引き起こす。	収蔵庫の断熱材や段ボールを破損。

🦋 文化財には“悪くない虫”もいます

一方で、建物の外や庭などに見られる虫の中には、文化財に直接の被害を与えないもの、
あるいは生態系のバランスを保つ「益虫」もたくさんいます。

種類	特徴	文化財への影響
🦋 **チョウ・ガの成虫**	花の蜜を吸う。幼虫は屋外植物を食べる。	通常は屋内に入らなければ問題なし。
🪰 **ハエ・アブ類**	一時的に侵入してもすぐ外へ出る。	展示室では衛生上の注意のみ。
🐞 **テントウムシ**	アブラムシを食べる。自然の“害虫ハンター”。	文化財被害なし。むしろ観察教材に◎
🐝 **ハチ類**	受粉を助ける重要な昆虫。	屋内侵入時のみ安全管理が必要。

芸術館Instagramでは、展覧会やイベントの情報、作品の紹介、活動報告などを発信中！ぜひ「フォロー」や「いいね！」をしてみてくださいね。